



### 題名：未来のためにできること

戸高 大翔(高千穂町役場勤務)

19歳で公務員として働き始めてから、選挙に対する見方が大きく変わった。高校生の頃の自分は、政治について深く考えることなんてほとんどなく、選挙のニュースが流れても「大人たちがやっていることで、自分には関係ない」と思っていた。政治を理解するために必要な知識もなく、どこか「難しい世界」というイメージばかりが強かった。

しかし、実際に公務員として働き始めて、行政の仕組みや税金の流れを知ると、政治が自分にとってどれだけ身近で、生活に直結したものなのかが徐々にわかってきた。

道路が整備されているのも、学校や保育所の支援が行われているのも、災害対策が進められているのも、全部行政の仕組みの中にある。そして、その行政をどう動かすかを定める人たちを選んでいるのが選挙だということに、改めて気づかされるようになった。こうした政策や事業は、ただ自然と動いているわけではなく、誰かが考え、判断し、決定しているものだ。その「誰か」を決める瞬間が選挙であり、そこに参加しないということは、自分の生活や未来について他人任せにしてしまうことだと気づいたとき、私は、「自分の未来を他人任せにしていいわけがない、自分で考えて選ばなければ納得できない。私の一票で変わる未来があるのかもしれない。」と選挙に対する意識が大きく変わった。

一方で、同世代の中で選挙に関心を持っている人はまだまだ少ないと感じる。友達や知り合いと話しても政治の話題が出ることはほとんどなく、「よくわからない」「難しそう」「投票しても何も変わらない」といった言葉を耳にすることの方が多い。正直、自分も以前はそう思っていたし、政策を調べようとすると専門的な言葉が多く出てきて、理解するまでに時間がかかることもある。忙しいときほど、つい「まあいいか」と思ってしまうようになる気持ちもわかる。

とはいえ、若者が選挙に行かず、声をあげなければ、若者のための政策は後回しになっていく。実際、人口の多い年代の意見が政治に大きく影響するのは当然で、そこに対抗するには若者も行動しなければならない。投票は一人ひとりでは小さな力かもしれない。でも、すべての若者がしっかり投票すれば、それは大きな意見になるし、政治家たちも「若者の意見を聞かなければいけない」と感じるはずだ。そう思うと、一票の重さは自分が感じている以上に大きいものだと考えるようになった。

公務員という立場上、政治的に特定の人や政党を応援することはできない。その制約はきちんと守らなければならないし、政治に対して適切な距離を保つことも必要だと思っている。でもそれは決して「政治に無関心でいい」という意味ではない。むしろ行政の現場で働くからこそ、政治や政策の決定が生活のさまざまな場面に影響してくることを理解する機会が多い。だから自分なりにしっかり調べて、自分の価値観に近いと思える人に一票を投じたいと思う。それが自分の暮らす社会に対する、ひとつの責任だと感じるようになった。

19歳の自分にとって、選挙はまだわからないことばかりで、正直、不安になることもある。しかし、それはみんな同じなのだと思う。初めから政治に詳しい若者なんてほとんどいないし、大切なのは「知らないからやめておく」ではなく、「知らないからこそ自分で調べてみる」という姿勢なのではないかと感じている。選挙は未来を選ぶ行為であり、たった一票でも、自分の意思を社会に刻むことができる。小さな一歩かもしれないが、その積み重ねが社会を少しずつ動かしていくのだと思う。

これからも選挙のたびに、自分の頭で考えて、自分の意思で投票したい。そして同世代の人たちにも、「選挙って実はそんなに難しくないし、未来に関わる大事な選択だよ」と自然に伝えていけるような存在になりたい。

若者の一票は小さいように見えて、実は社会を変える力を持っている。未来を他人任せにするより、自分で選んで動いていくほうが、前向きで気持ちよく、この社会の中を過ごしていけると私は思う。



### 題名：「求めること」と「するべきこと」

綾 香水子(高千穂町役場勤務)

私が「成人」と言われる18歳になると同時に選挙権を与えられてから、今年で5年目を迎えました。

ここ数年では、衆議院議員選挙や参議院議員選挙などの選挙が行われ、私も投票したり、事務従事者として関わったりしました。

私は政治や選挙に対して、興味がないわけではありません。戦争や物価高騰、環境問題、少子高齢化、外交問題など問題が山積みで、生活も影響を受けています。しかし、政治や選挙に関するニュースや公約を掲げて演説を行っている様子を見ても、また「やっているな」という思いしか浮かばず、誰でもいいやという考えで投票しました。

こういう機会をいただき、自分がなぜ政治や選挙に興味・関心がないわけではないのに、真剣に考えられないのか、参加意欲が低いのかを考えてみました。

1つ目は、知識がないということです。私は、一票が政治にどのような影響を与えているのか、なぜ若者が興味・関心を持つことが大事なのかなど、政治や選挙に関する知識が足りないと思っています。まずは早い段階で政治や選挙に関する教育を受けて、知識を得ることが自分事として政治を捉え、興味や関心を持つことにつながると考えます。

2つ目は、自分自身が危機感を持っていないということです。日本は治安もよく、戦争もなく、医療や教育をしっかりと受けられる国です。私は、それが当たり前が続くものだと思っていますし、何か問題が起こっても普段の生活にはほとんど影響を感じることもなく過ごしてきたため、今の政治や日本に対して危機感もなく、真剣に日本や将来のことを考えていませんでした。

しかし、近年は始めにも述べたような解決に長い時間がかかる問題が多く発生し、影響も少なからず受けています。今は大丈夫でも10年後、50年後も今の暮らしを送れるという確証はなく、自分事としてしっかり向き合っていく必要があると思うようになりました。

3つ目は、期待をしていないということです。これまでも何回も選挙が開催され、その度に政治が止まり、公約も実現しないまま次の政権などになる状況に、誰になっても「どうせ何も変わらない」という「諦め」と「無力感」を感じています。

私は、知識不足、危機感のなさ、期待をしていないという3つの理由から、政治や選挙を真剣に考えられていないのだと気づきました。そのため「知識不足」については、ニュースやSNSなどで少しずつでも情報収集をする、「危機感のなさ」については、今抱えている課題が将来にどのように影響するのか、海外で起こっていることが日本でも起こる可能性があるのではないかと片隅にでも考えておくことをしていきたいと思います。

「期待をしていない」ことについては、私は、「諦め」や「無力感」を感じさせない、「期待できる」政治にするために、議員の方々に4つ求めることがあります。SNSなどを用いて活動内容や現在取り組んでいることを発信すること、結果をしっかり出すこと、国民が求めていることをアップデートしていくこと、不安や不信感を与える行動、発言をしないことを徹底することです。

今年18歳が「有権者」となってから10年を迎える節目の年です。若者が現状に危機感を持って、思いや考え、求めていることを示さなければならない状況になっていると強く感じます。そのためにも、政治や選挙に興味を持つこと、参加することが重要になるのではないのでしょうか。

私自身を含む「わけもん」は、今後の社会や政治に自分が「求めること」と「するべきこと」をしっかり考え、行動することが必要です。私は、「期待したい」と思える政治になってほしいということを「求め」、そのために危機感を持つ、知識をつける、投票するなどという「するべきこと」を行いたいと思います。